平塚市立小学校及び中学校適正規模等基本方針に対する答申
概　要

日　時　令和８年１月 20 日（火）　13 時 30 分～14 時 00 分

場　所　平塚市美術館　ミュージアムホール

出席者　委員８人（山﨑委員、湯川委員、吉田委員、陶山委員、伊澤委員、工藤委員、木村委員、二見委員）

吉野教育長、事務局（教育総務部長、学校教育部長、社会教育部長、教育総務課長、教育総務部教育総務課企画担当課長代理、企画担当１人）

平塚市立小学校及び中学校適正規模等基本方針検討委員会　山﨑委員長より、教育長へ答申書が渡された。

（左から吉野教育長、山﨑委員長）

【山﨑委員長】

第１回委員会以来、皆様から積極的な御意見をいただき、時に議論が白熱することもありましたが、これは学校や子ども、地域の方々に対する熱い想いの表れだったと思います。基本方針は今後取り組むべき大枠をまとめたものですが、今回委員長として学校や公共施設のハード・ソフト両面の経験を活かし、皆様と意見を交えたことを大変光栄に思います。

教育の計は数 10 年単位、すなわち親子２代３代に亘って議論し、継承すべき重要な課題です。私自身、これまで学校教育施設を専門に研究しながら、多様な子どもの個性や資質に着目する重要性を学び、個々の多様性を尊重しつつ、建築的に支援することが長年の課題でありました。

本委員会でも、子ども一人一人の個性や能力、地域との連携を重視する視点が共有され、委員の皆様から提言された貴重な御意見は、私自身大いに刺激を受け、学びを深める機会となりました。この答申が次につながることを心から祈念しています。

【湯川副委員長】

副委員長として、平塚市の教育の未来に向けた良い襷渡しができたなら嬉しく思います。

この委員会で示された方針の成否はこれから示されるものと考えます。その意味でも非常に重い責務を担っていたこと、そしてここで終わりではなく、この議論においてむしろスタート地点に立ったという意味で改めて身が引き締まる思いがします。

改めて振り返ると、本委員会で最も多く議論されたのは「子どもをまんなかに」ということです。児童・生徒を中心に、その周囲に関係者が同心円状に広がりサポートする体制のもと、子どもたちの学びに寄り添い、そばにいる大人が適切に意思決定する必要があります。従って誰の立場で判断するのかを常に振り返ることが重要であり、その指針を基本方針に示すことができました。保護者、地域、学校、教職員、平塚市など、それぞれの考え方に相違が生まれることは想像に難くありません。各関係者が理解を深めながら「子どもをまんなかに」意思決定を行うことが、未来に向けた良い学校づくりにつながることを願っています。

【教育長】

先ほど山崎委員長より答申書をいただきました。委員の皆様には、昨年２月より１年間にわたり基本方針について御審議いただいたきました。子どもたちにとって望ましい教育環境の構築を目指し、その視点に立って毎回熱心かつ活発な議論が交わされたと承知しています。この答申書は、皆様の熱い想いを集約した重みのあるものであり、しっかりと受け止めていきます。

本日をもって本委員会は終了となります。山崎委員長、湯川副委員長をはじめ委員の皆様に心より感謝申し上げるとともに、今後もそれぞれの立場から平塚市の教育に御助言いただければ幸いです。